

看護学教育モデル・コア・カリキュラム／学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標 対比表

看護学教育モデル・コア・カリキュラム（平成29年10月）	学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標
<b>〇看護系人材として求められる基本的な資質・能力</b>	
<b>1 プロフェッショナリズム</b>	I群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力
あらゆる発達段階、健康レベル、生活の場にある人々の健康で幸福な生活の実現に貢献することを使命とし、人々の尊厳を擁護する看護を實踐し、その基盤となる看護学の発展や必要な役割の創造に寄与する。	1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2) 実施する看護について説明し同意を得る能力 3) 援助的関係を形成する能力
<b>2 看護学の知識と看護実践</b>	II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
多様な人々の看護に必要な十分な知識を身に付け、個人・家族・集団・地域について幅広く理解し、アセスメント結果に基づく根拠ある看護を實踐する。	4) 根拠に基づいた看護を提供する能力 5) 計画的に看護を實踐する能力
<b>3 根拠に基づいた課題対応能力</b>	6) 健康レベルを成長発達に応じて査定(Assessment)する能力
未知の課題に対して、自ら幅広く多様な情報を収集し、創造性の発揮と倫理的・道徳的な判断及び科学的根拠の選択によって課題解決に向けた対応につなげる。	7) 個人と家族の生活を査定(Assessment)する能力 8) 地域の特性と健康課題を査定(Assessment)する能力 9) 看護援助技術を適切に実施する能力
<b>4 コミュニケーション能力</b>	III群 特定の健康課題に対応する実践能力
人々の相互の関係を成立・発展させるために、人間性が豊かで温かく、人間に対する深い畏敬の念を持ち、お互いの言動の意味と考えを認知・共感し、多様な人々の生活・文化を尊重するための知識・技術・態度で支援に当たる。	10) 健康の保持増進と疾病を予防する能力
<b>5 保健・医療・福祉における協働</b>	11) 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力
対象者や保健・医療・福祉や生活に関わる全ての人々と協働し、必要に応じてチームのリーダー、メンバー、コーディネーターとして役割を担う。	12) 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 13) 終末期にある人々を援助する能力
<b>6 ケアの質と安全の管理</b>	IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力
人々にとって良質で安全なケアの提供に向けて、継続的にケアの質と安全を管理する。	14) 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力 15) 地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力
<b>7 社会から求められる看護の役割の拡大</b>	16) 安全なケア環境を提供する能力
多様でしかも急速に変化しつつある社会状況を認識し、地域社会や国際社会から求められる役割を果たすことにより専門職の責任を果たすとともに、必要な役割を見いだし拡大する。	17) 保健医療福祉における協働と連携をする能力 18) 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力
<b>8 科学的探究</b>	V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力
人々の健康で幸福な生活の実現に貢献する基盤としての看護学研究の必要性を理解し、研究成果と看護実践への活用例を具体的に知ることを通して、看護学の知識体系の構築に関心向ける。	19) 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 20) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力
<b>9 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢</b>	
専門職として、看護の質の向上を目指して、連携・協働する全ての人々とともに省察し、自律的に生涯を通して最新の知識・技術を学び続ける。	
<b>A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力</b>	
学士課程における看護系人材としての資質・能力を獲得するための学修内容とその到達レベルを定める。	
<b>A-1 プロフェッショナリズム</b>	
あらゆる発達段階、健康レベル、生活の場にある人々の健康で幸福な生活の実現に貢献することを使命とし、人々の尊厳を擁護する看護を實踐し、その基盤となる看護学の発展や必要な役割の創造に寄与することを学ぶ。	
<b>A-1-1) 看護職としての使命、役割と責務</b>	I群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力
ねらい： 人々の健康で幸福な生活の実現に貢献するという看護職としての使命、役割の発揮・創造に向けて、基盤となる知識を修得し、自分の責任と能力を認識した上で、その範囲内で責務を果たすことを学ぶ。	1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力
学修目標： ① 人々の健康で幸福な生活とは、人々のもつ価値観や社会的背景を踏まえて多様であることを理解し、尊重できる。	V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力
② 看護職に求められる様々な役割を説明できる。	20) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力
③ 看護職の法的義務を説明できる。	
④ 自分の責任と能力の範囲を知り、可能な役割と責務を果たすことができる。	
<b>A-1-2) 看護の基盤となる基本的人権の理解と擁護</b>	I群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力
ねらい： 看護の基盤となる人々の基本的人権を理解し擁護する必要性を学ぶ。	1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力
学修目標： ① 人々の基本的人権について説明できる。	2) 実施する看護について説明し同意を得る能力
② 看護において人々の基本的人権が擁護される状況が理解できる。	3) 援助的関係を形成する能力
③ 看護において人々の基本的人権を擁護するための手段・方法が理解できる（インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性、守秘義務、個人情報保護の方法等）。	
④ ケアは相互作用であることを踏まえ、ケア提供者の人権も守る必要があることと状況が理解できる。	
⑤ 自分の責任と能力の範囲内で實踐する看護の根拠として、基本的人権が説明できる。	
<b>A-1-3) 看護倫理</b>	I群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力
ねらい： 看護実践における倫理の重要性、倫理に関する理論や倫理原則、思考方法を学ぶ。	1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力
学修目標： ① 生命、人の尊厳を尊重することができる。	
② 看護を取り巻く倫理的課題とその背景や歴史を理解できる。	
③ 倫理的課題を解決するための理論や倫理原則、思考方法を理解できる。	

<p><b>A-2 看護学の知識と看護実践</b></p> <p>多様な人々の看護に必要な十分な知識を身に付け、個人・家族・集団・地域について幅広く理解し、アセスメント結果に基づく根拠ある看護を実践することを学ぶ。</p>	
<p><b>A-2-1) 学修の在り方</b></p> <p>ねらい： 看護だけでなく、様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合整理し、根拠ある看護実践に結び付けることを学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 看護実践の根拠として、様々な情報を客観的・批判的に整理する必要性を理解できる。 ② 看護実践から看護学の知識を考察し表現できる。 ③ 適切な助言等を通して主体的に学ぶ姿勢を獲得できる。 ④ 各自の興味・関心に応じて必要な科目、プログラムを選択し、参加できる。</p>	<p>V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力</p> <p>1 9) 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力</p>
<p><b>A-2-2) 看護実践能力</b></p> <p>ねらい： 統合された知識、技術、態度に基づき、根拠に基づいた全人的看護実践を学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 看護実践を行う上で、知識、技術、態度を統合する必要性を理解できる。 ② 自分の責任と能力の範囲を自覚し、正確な知識、確実な技術、適切な態度を統合した看護を実践できる。 ③ チームの一員として必要な看護に参画できる。 ④ 看護実践能力を自己評価し、必要な学修ができる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p> <p>4) 根拠に基づいた看護を提供する能力 5) 計画的に看護を実践する能力 6) 健康レベルを成長発達に応じてアセスメントする能力 7) 個人と家族の生活をアセスメントする能力 8) 地域の特性と健康課題をアセスメントする能力 9) 看護援助技術を適切に実施する能力</p> <p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>1 0) 健康の保持増進と疾病を予防する能力 1 1) 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 1 2) 慢性疾患及び慢性的な健康問題を有する人々を援助する能力 1 3) 終末期にある人々を援助する能力</p>
<p><b>A-3 根拠に基づいた課題対応能力</b></p> <p>未知の課題に対して、自ら幅広く多様な情報を収集し、創造性の発揮と倫理的・道徳的な判断及び科学的根拠の選択によって課題解決に向けた対応につなげる基盤を身に付ける。</p>	
<p><b>A-3-1) 課題対応能力</b></p> <p>ねらい： 自らの力で課題を発見し、解決に向けた対応を学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 必要な課題を自ら発見できる。 ② 重要性・必要性に応じて自分に必要な課題の優先順位を決定できる。 ③ 課題の解決に向けた対応方法を自らの力だけでなく他者と協力して見いだすことができる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p> <p>4) 根拠に基づいた看護を提供する能力</p> <p>V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力</p> <p>1 9) 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力</p>
<p><b>A-4 コミュニケーション能力</b></p> <p>人々の相互の関係を成立・発展させるために、人間性が豊かで温かく、人間に対する深い畏敬の念を持ち、お互いの言動の意味と考えを認知・共感し、多様な人々の生活・文化を尊重するための知識、技術、態度で支援に当たることを学ぶ。</p>	
<p><b>A-4-1) コミュニケーションと支援における相互の関係性</b></p> <p>ねらい： 看護において、コミュニケーションが人々との相互の関係に影響することを理解し、より良い支援に向けたコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 看護において、コミュニケーションが人々との相互の関係に影響することを理解できる。 ② 人々との相互の関係を成立させるために必要とされるコミュニケーション技法について説明できる。 ③ 自分の傾向がわかり、自分の課題を意識しながらコミュニケーションをとることができる。</p>	<p>I群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力</p> <p>2) 実施する看護について説明し同意を得る能力</p> <p>3) 援助的関係を形成する能力</p>
<p><b>A-5 保健・医療・福祉における協働</b></p> <p>対象者や、保健・医療・福祉や生活に関わる全ての人々と協働し、必要に応じてチームのリーダー、メンバー、コーディネーターとして役割を担うための基盤を学ぶ。</p>	
<p><b>A-5-1) 保健・医療・福祉における協働</b></p> <p>ねらい： 様々な人々と協働し、チームの一員として看護職に求められる役割を果たすための基盤を学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 保健・医療・福祉における協働の目的と意義、看護職に求められる役割を説明できる。 ② 保健・医療・福祉における協働の実際を具体的に説明できる。 ③ 様々な人々との協働を通して、健康上の諸課題への対応に参画できる。</p>	<p>IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力</p> <p>1 4) 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力</p> <p>1 5) 地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力</p> <p>1 7) 保健医療福祉における協働と連携をする能力</p>
<p><b>A-6 ケアの質と安全管理</b></p> <p>人々にとって良質で安全なケアの提供に向けて、継続的にケアの質と安全管理するための基盤を学ぶ。</p>	
<p><b>A-6-1) ケアの質の保証</b></p> <p>ねらい： 良質なケアの提供に向けて、ケアの質を管理し保証するための基盤を学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 良質なケアの提供に向けて、ケアの質を管理し保証していくことの必要性を理解できる。 ② ケアの質を管理し保証していくための具体的な方法を説明できる。 ③ ケアの質を管理し保証していくための活動に参画できる。</p>	<p>IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力</p> <p>1 4) 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力</p> <p>1 6) 安全なケア環境を提供する能力</p>

<p><b>A-6-2) 安全性の管理</b></p> <p>ねらい： 日常的に起こる可能性がある医療上の事故・インシデント（誤薬、転倒・転落、院内感染、針刺し事故）等やリスクを認識し、人々にとってより安全な看護を学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 看護における安全性の確保のため、能力向上の必要性を説明できる。 ② 看護における安全性の確保のための対応策を実施できる。 ③ 看護における安全性を向上させるための活動に参画できる。 ④ 自身の体調管理を行うとともに、知識及び技能を見極め、能力の範囲に応じて他者の支援を仰ぐことの重要性を理解できる。</p>	<p>IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力 1 6) 安全なケア環境を提供する能力</p>
<p><b>A-7 社会から求められる看護の役割の拡大</b></p> <p>多様でしかも急速に変化しつつある社会状況を認識し、地域社会、国際社会から求められる役割を果たすことにより専門職の責任を果たすとともに、必要な役割を見だし拡大する基礎を学ぶ。</p>	
<p><b>A-7-1) 看護職の活動の歴史・法的基盤</b></p> <p>ねらい： 社会から求められる看護職の役割、責任を検討する基盤として看護の歴史を学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 医療・看護の歴史、法的基盤を理解できる。 ② 看護職の役割や活動の変遷、それに影響する事例を理解できる。</p>	<p>V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 2 0) 看護専門職としての価値と専門性を発揮させる能力</p>
<p><b>A-7-2) 保健・医療・福祉等の多様な場における看護職の役割</b></p> <p>ねらい： 保健・医療・福祉等の多様な場における看護職の役割について学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 看護職が活躍する多様な場とそこでの役割を理解できる。 ② 地域社会の変化、保健・医療・福祉の動向を踏まえ、今後の看護職に求められる役割や責任について考察できる。</p>	<p>IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力 1 5) 地域ケアの構築と看護機能の充実に資する能力 1 8) 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 1 9) 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 2 0) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力</p>
<p><b>A-7-3) 国際社会・多様な文化における看護職の役割</b></p> <p>ねらい： 国際社会・多様な文化における看護職の役割について学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について理解できる。 ② 多様な文化背景をもつ人々の生活の支援に必要な能力を理解できる。 ③ 国際社会における健康課題と戦略を理解し、今後の看護職に求められる役割や責任について考察できる。</p>	<p>IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力 1 8) 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力</p>
<p><b>A-8 科学的探究</b></p> <p>人々の健康で幸福な生活の実現に貢献する基盤としての看護学研究の必要性を理解し、研究成果と看護実践への活用例を具体的に知ることを通して、看護学の知識体系の構築に関心を向ける。</p>	
<p><b>A-8-1) 看護学における研究の必要性・意義</b></p> <p>ねらい： 看護学における研究の必要性・意義を学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 実践の課題に基づき研究が開始され、研究成果が実践に還元され、実践の根拠となることを理解できる。 ② 研究成果を根拠とする看護実践への活用例を理解できる。 ③ 看護実践の向上、看護学における研究の必要性・意義が説明できる。</p>	<p>V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 1 9) 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 2 0) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力</p>
<p><b>A-9 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢</b></p> <p>専門職として、看護の質の向上を目指して、連携・協働する全ての人々とともに省察し、自律的に生涯を通して最新の知識・技術を学び続ける基盤を身に付ける。</p>	
<p><b>A-9-1) 自己研鑽の必要性と方法</b></p> <p>ねらい： 看護専門職の自己研鑽の必要性と方法を学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 生涯にわたる自己研鑽の必要性を理解できる。 ② 日々の看護実践の省察の重要性を理解できる。 ③ 自己教育力を高める方法について理解し、個々が実施可能な方法を検討し、実践できる。</p>	<p>V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 1 9) 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 2 0) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力</p>
<p><b>A-9-2) 看護学の専門性の発展</b></p> <p>ねらい： 看護学の専門性の発展に資するキャリア開発の重要性を理解し、個々のキャリアパス・キャリア開発方法を学ぶ。</p> <p>学修目標： ① キャリアパス・キャリア開発の概念について理解できる。 ② 多様な生涯学習機会の獲得方法（実践の振り返り、自己学習、職場における継続教育、学術学会や専門職団体による各種研修、大学院、共同研究等）を把握し、将来的なキャリアパス・キャリア開発への活用を説明できる。</p>	<p>V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 1 9) 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 2 0) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力</p>

<b>B 社会と看護学</b>	
社会を形作る文化や制度と健康との関連について学び、看護学の基礎となる知識を修得する。また、社会における看護職の役割について学ぶ。	
<b>B-1 人々の暮らしを支える地域や文化</b>	II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 8) 地域の特性と健康課題を査定(Assessment)する能力
<b>ねらい:</b>	
人々の暮らしに影響する地域特性に関連する文化的・社会的背景を理解するために必要な基礎的知識や考え方について学ぶ。	
<b>学修目標:</b>	
① 地域の人々の生活、文化、環境、社会経済構造等、地域の特性を捉える方法について説明できる。	
② 地域の保健・医療・福祉制度、健康に関する情報、指標について説明できる。	
<b>B-2 社会システムと健康</b>	
<b>B-2-1) 健康の概念</b>	I群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力 1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 III群 特定の健康課題に対応する実践能力 10) 健康の保持増進と疾病を予防する能力
<b>ねらい:</b>	
健康の定義や健康に関連する概念について学ぶ。	
<b>学修目標:</b>	
① 健康の定義について説明できる。	
② 健康に関連する主要な概念について説明できる。	
③ 健康行動を理解するための基礎となる理論について説明できる。	
④ 健康の社会的決定要因について説明できる。	
⑤ 多様な健康状態にある人に応じた健康の捉え方の重要性について理解できる。	
⑥ 予防の概念について説明できる。	
⑦ 疾病や障害の遺伝要因と環境要因について説明できる。	
<b>B-2-2) 環境と健康</b>	I群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力 1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 7) 個人と家族の生活を査定(Assessment)する能力 9) 看護援助技術を適切に実施する能力 IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力 15) 地域ケアの構築と看護機能の充実に関する能力
<b>ねらい:</b>	
人々の暮らしを取り巻く環境について、現状や課題と健康への関連について学ぶ。	
<b>学修目標:</b>	
① 環境(社会・文化的環境、物理・化学・生物的環境、政治・経済的環境)について説明できる。	
② 環境の現状や課題、環境と健康・生活との関連について説明できる。	
③ 薬物や放射線が健康・生活に与える影響について説明できる。	
④ 健康を支援するために環境に働きかけていく必要性について説明できる。	
⑤ 災害が健康・生活に与える影響について説明できる。	
⑥ 遺伝的・性的多様性を踏まえた上で、環境と健康・生活との関連について理解できる。	
<b>B-2-3) 生活・ライフスタイルと健康との関連</b>	I群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力 1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 6) 健康レベルを成長発達に応じて査定(Assessment)する能力 7) 個人と家族の生活を査定(Assessment)する能力 9) 看護援助技術を適切に実施する能力
<b>ねらい:</b>	
多様な生活・ライフスタイルをもつ人々を理解し、その人にとって健康な生活の在り方を考えるための基礎となる生活と健康との関連について学ぶ。また、人がより良い健康行動をとることができるよう支援するために必要な行動科学・社会科学に関連する知識について学ぶ。	
<b>学修目標:</b>	
① ライフスタイルの背景にある文化を理解し、多様なライフスタイルを理解できる。	
② 栄養・食生活、身体活動・運動、休養・睡眠と健康との関連について説明できる。	
③ ストレスの原因と健康との関連について説明できる。	
④ 嗜好(喫煙、飲酒、ギャンブル等)と健康との関連について説明できる。	
⑤ 生活習慣に関連付けた健康の概念や政策(プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション、国民健康づくり運動)について説明できる。	
⑥ 個人のライフスタイルについて健康の側面からアセスメントする重要性について説明できる。	
⑦ 主な社会資源と人々の暮らしや健康との関連について説明できる。	
⑧ 人の行動変容支援に必要な基礎理論(心理学、行動科学)について理解できる。	
<b>B-2-4) 地域ケアシステム</b>	IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力 15) 地域ケアの構築と看護機能の充実に関する能力 17) 保健医療福祉における協働と連携をする能力
<b>ねらい:</b>	
個人・家族が暮らし地域に存在する社会資源、グループ、組織について理解し、人々の健康な生活のための地域のケアシステムやネットワークの構築の必要性について学ぶ。	
<b>学修目標:</b>	
① 地域の資源や様々なグループ、組織の活動について人々の暮らしと関連付けて説明できる。	
② 人々に必要な地域のケアシステムやネットワークについて、関連機関や多職種と連携・協働し構築する必要性について説明できる。	
<b>B-2-5) 社会の動向と保健・医療・福祉制度</b>	IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力 15) 地域ケアの構築と看護機能の充実に関する能力 17) 保健医療福祉における協働と連携をする能力 18) 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力
<b>ねらい:</b>	
看護を取り巻く社会の動向や特性について学ぶ。健康と生活の支援に必要な保健・医療・福祉制度について学ぶ。	
<b>学修目標:</b>	
① 社会の動向や特性を説明できる。	
② 日本における社会保障制度の変遷と特徴について説明できる。	
③ 社会保障制度の種類(社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生、医療等)について説明できる。	
④ 社会保険の種類(医療保険、年金保険、労災保険、雇用保険、介護保険)について説明できる。	
⑤ 公衆衛生及び医療の主要な関連法規(地域保健法、感染症法、健康増進法、学校保健安全法、労働安全衛生法、医療法等)について説明できる。	
⑥ 保健・医療・福祉における課題(生活習慣病、母子保健、児童福祉、学校保健、成人保健、産業保健、高齢者の保健・医療・福祉制度、認知症、障害児・者施策、精神保健、歯科保健、感染症、がん、難病等)の動向と対策について説明できる。	

<b>B-2-6) 疫学・保健統計</b> <b>ねらい：</b> 根拠に基づいた看護を実践するための基礎となる疫学と保健統計について学ぶ。 <b>学修目標：</b> ① 人口統計（人口動態、人口動態）、疾病構造、保健・医療・福祉に関する基本的統計や指標について説明できる。 ② 健康障害と相対リスクについて説明できる。 ③ 疫学的因果関係の推定について説明できる。 ④ 情報リテラシーについて説明できる。 ⑤ 統計資料をデータベースや文献・図書から検索し活用できる。	II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 4) 根拠に基づいた看護を提供する能力 V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 19) 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力
<b>B-3 社会における看護職の役割と責任</b> <b>B-3-1) 看護職の法的位置付け</b> <b>ねらい：</b> 看護職の法的位置付けについて学ぶ。 <b>学修目標：</b> ① 看護職を規定する法律や関連法規（保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律等）について説明できる。 ② 看護の動向とそれに関わる制度や法規（特定行為、訪問看護、資格認定制度等）について理解できる。 ③ 看護職と連携する主な職種（医師法、医療関係職に関する法律、各福祉士に関する法律）の特徴について説明できる。	IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力 17) 保健医療福祉における協働と連携をする能力 V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 20) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力
<b>B-3-2) 看護における倫理</b> <b>B-3-2)-(1) 倫理規範と実践</b> <b>ねらい：</b> 保健・医療・福祉における、倫理に関する知識と生命・人の尊厳について理解する。 <b>学修目標：</b> ① 生命倫理、医療倫理、臨床倫理等の関連領域の倫理の変遷を理解できる。 ② 医療・看護における倫理に関する規範・原則や指針（倫理の原則、倫理指針、看護者の倫理綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート、ニュルンベルク綱領、リスボン宣言、世界人権宣言等）について説明できる。 ③ 医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる。 ④ 医療や看護の現場における倫理的課題と調整方法について説明できる。	I群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力 1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力
<b>B-3-2)-(2) 保健・医療・福祉における個人情報</b> <b>ねらい：</b> 保健・医療・福祉における個人情報について、倫理的配慮の下に取扱いができる。 <b>学修目標：</b> ① 保健・医療・福祉における個人情報の取扱いとセキュリティについて説明できる。 ② 個人情報保護や守秘義務に関する法規について説明できる。 ③ 個人情報保護や守秘義務を遵守することができる。 ④ 多職種間での情報共有時の配慮ができる。 ⑤ 情報の開示に関する法的根拠と注意点を説明できる。	I群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力 1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力
<b>B-3-3) 国際社会と看護</b> <b>ねらい：</b> 国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について学ぶ。 <b>学修目標：</b> ① 国際社会の保健・医療・福祉における現状と課題について説明できる。 ② 国際的視野で、看護の対象となる人への配慮について説明できる。 ③ 日本の保健・医療・福祉の特徴を理解し、国際社会における看護の役割と貢献について考えることができる。	IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力 18) 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力

<p><b>C 看護の対象理解に必要な基本的知識</b></p> <p>人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。</p>	
<p><b>C-1 看護学に基づいた基本的な考え方</b></p> <p><b>C-1-1) 看護の本質</b></p> <p>ねらい： 看護とは何かを学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 看護の定義について説明できる。 ② 看護の目的について説明できる。 ③ 看護理論の役割や特定の理論の特徴について説明できる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 4) 根拠に基づいた看護を提供する能力 V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 20) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力</p>
<p><b>C-1-2) ケア概念とケアにおける看護学との関連</b></p> <p>ねらい： ケア概念とケアにおける看護学の位置付けについて学ぶ。</p> <p>学修目標： ① ケア概念について説明できる。 ② 保健・医療・福祉に関わる専門職について説明できる。 ③ ケアに関わる学問である看護学の位置付けについて説明できる。</p>	<p>IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力 14) 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力 V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 20) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力</p>
<p><b>C-1-3) 看護の観点から捉える人間</b></p> <p>ねらい： 看護学を構成する概念について理解し、看護の観点に立った人間の捉え方を学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 看護学の主要な概念を説明できる。 ② 看護理論や看護現象を理解するための諸理論・概念を活用して人間について統合的に捉え説明できる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 4) 根拠に基づいた看護を提供する能力</p>
<p><b>C-1-4) 看護過程</b></p> <p>ねらい： 看護過程の一連の流れについて知識として理解し、実践に活用するための方法を学ぶ。</p> <p>学修目標： ① 看護過程とは何かについて説明できる。 ② 対象理解のための情報収集について説明できる。 ③ 収集した情報を科学的根拠に基づいてアセスメントする方法を説明できる。 ④ 対象者のより良い健康状態を目指すために必要な専門知識の活用を説明できる。 ⑤ 看護ニーズを明確化し、優先順位を決定する方法を説明できる。 ⑥ 看護目標を設定し、具体的に計画立案・実施する方法を説明できる。 ⑦ 実施した看護を評価する方法を説明できる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 4) 根拠に基づいた看護を提供する能力 5) 計画的に看護を実践する能力</p>
<p><b>C-2 生活者としての人間理解</b></p> <p>毎日の生活は、様々な人や環境との関わりを通して営まれており、生活の在り方がその人らしさを際立たせていく。生活者としての成長・発達課題を理解することを通して生活を支援する看護の視点を学ぶ。</p>	
<p><b>C-2-1) 人間にとっての生活</b></p> <p>ねらい： 人の生活行動と健康状態とのつながりを統合して捉えるための知識を学び、看護実践が人の生活の変化に対応して展開されることの理解を深める。</p> <p>学修目標：</p>	
<p><b>C-2-1-(1) 生活行動の動機</b></p> <p>① 人間の基本的欲求について説明できる。 ② 生活における習慣、生きがい、信仰活動について理解できる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 6) 健康レベルを成長発達に応じて査定(Assessment)する能力 7) 個人と家族の生活を査定(Assessment)する能力</p>

<p><b>G-2-1)-(2) 生活行動と生体機能</b></p> <p>① 食生活の成り立ち、食行動に影響を与える要因を理解し、健康にとって食の持つ意味を理解できる。</p> <p>② 食行動に関係する消化管と消化腺の構造と機能を説明できる。</p> <p>③ 栄養とエネルギー代謝を説明できる。</p> <p>④ 糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル等の物質代謝を概説できる。</p> <p>⑤ 血糖の調節機構を説明できる。</p> <p>⑥ 排せつ習慣、排せつ様式等、健康にとって排せつの持つ意味を理解できる。</p> <p>⑦ 排せつに関わる消化管、腎臓と尿路の構造と機能を説明できる。</p> <p>⑧ 皮膚の構造と機能を説明できる。</p> <p>⑨ 清潔行動、清潔に対する認識等、健康にとって清潔の持つ意味を理解できる。</p> <p>⑩ 衣生活に関わる行動と意味について理解できる。</p> <p>⑪ 生体リズム、活動と休息のバランス、運動習慣、睡眠パターン等、健康にとっての活動と休息の意味を理解できる。</p> <p>⑫ 生活行動に必要な骨と骨格筋、神経系の連携による運動のメカニズムを説明できる。</p> <p>⑬ 骨、軟骨、関節、靭帯、筋肉の構造と機能を説明できる。</p> <p>⑭ 生活における性と生殖について理解できる。</p> <p>⑮ 男女の生殖器の構造と機能を説明できる。</p> <p>⑯ 性周期と加齢に伴う生殖機能の変化について説明できる。</p> <p>⑰ 生活における仕事と余暇について理解できる。</p> <p>⑱ コミュニケーション（言語的・非言語的）の相互作用について理解できる。</p> <p>⑲ 生活の中の学習行動について理解できる。</p> <p>⑳ 生活における精神の健康について理解できる。</p> <p>㉑ 外部から五感（視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚）を通して得られた感情について理解できる。</p> <p>㉒ 各生活行動を統合して対象者の生活について理解できる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p> <p>6) 健康レベルを成長発達に応じて査定(Assessment)する能力</p> <p>7) 個人と家族の生活を査定(Assessment)する能力</p>
<p><b>G-2-1)-(3) 生活者としての多様性</b></p> <p>① 多様な性の在り方について理解できる。</p> <p>② 固有な生活の中で形成される心や人格の関係を理解できる。</p> <p>③ 人間の成長・発達に伴う生活行動・コミュニケーション・情緒・社会的役割の変化を理解できる。</p> <p>④ 地域や家族等、固有に受け継がれる生活習慣の多様性について理解できる。</p> <p>⑤ 個の特性に応じて生活することの重要性を理解できる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p> <p>7) 個人と家族の生活を査定(Assessment)する能力</p>
<p><b>G-2-2) 個人と家族</b></p> <p>① 個人と家族の発達課題を理解できる。</p> <p>② 夫婦関係が形成される過程について理解できる。</p> <p>③ 子どもが生まれ、家族が形成される過程を理解できる。</p> <p>④ 家族のそれぞれの構成員が家庭生活を営む上でどのように機能しているかを理解できる。</p> <p>⑤ 子どもを産み育てる家族の機能を理解できる。</p> <p>⑥ 家族のセルフケア機能を理解できる。</p> <p>⑦ 家族の社会化機能を理解できる。</p> <p>⑧ 経済的側面が家族に与える影響を理解できる。</p> <p>⑨ 家族をシステムとして理解し家族介入の基本を理解できる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p> <p>7) 個人と家族の生活を査定(Assessment)する能力</p> <p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>10) 健康の保持増進と疾病を予防する能力</p>
<p><b>G-2-3) 生活環境としての場</b></p> <p>① 生活の場としての地域・社会の意味を説明できる。</p> <p>② 生活とは何か、生活と環境や文化との関係を説明できる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p> <p>7) 個人と家族の生活を査定(Assessment)する能力</p> <p>8) 地域の特性と健康課題を査定(Assessment)する能力</p>
<p><b>G-2-4) 地域社会における生活者</b></p> <p>① 地域社会の文化、慣習が生活に及ぼす影響について説明できる。</p> <p>② 地域社会において他者への依存と自立のバランスが生活に及ぼす影響について理解できる。</p> <p>③ 死の概念、個人や家族にとっての死及び看取りの意味を理解できる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p> <p>8) 地域の特性と健康課題を査定(Assessment)する能力</p> <p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>13) 終末期にある人々を援助する能力</p>
<p><b>G-3 生物学的に共通する身体的・精神的側面の人間理解</b></p> <p>身体的・精神的側面から人間を理解するために必要な体の仕組み及び機能を学ぶ。これらは、全て看護実践において臨床推論の根拠として活用し、知識を統合して全人的にアセスメントするために活用されるものである。</p>	
<p><b>G-3-1) 細胞と組織</b></p> <p><b>ねらい：</b></p> <p>生命体の最小単位である細胞の成り立ちや遺伝子、器官を構成する組織に関する基本事項を学ぶ。</p> <p><b>学修目標：</b></p> <p><b>G-3-1)-(1) ゲノムと遺伝子、細胞</b></p> <p>① ゲノムと染色体と遺伝子、遺伝の基本的機序を説明できる。</p> <p>② 細胞周期と細胞分裂を説明できる。</p> <p>③ 細胞の構造を説明できる。</p> <p><b>G-3-1)-(2) 組織</b></p> <p>① 人体を構成する4つの組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）を説明できる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p> <p>6) 健康レベルを成長発達に応じて査定(Assessment)する能力</p>

<p><b>C-3-2) 生命維持と生体機能の調節</b></p> <p>ねらい： 生命維持のための生体機能の基本的事項を学ぶ。</p> <p>学修目標：</p> <p><b>C-3-2)-(1) ホメオスタシス</b></p> <p>① 体液の量と組成を説明できる。</p> <p>② 体液の調節（体液量、電解質バランス、浸透圧）を説明できる。</p> <p>③ 酸塩基平衡の調節機構を説明できる。</p> <p>④ 体温の調節機構を説明できる。</p> <p><b>C-3-2)-(2) 呼吸器系</b></p> <p>① 気道の構造と機能を説明できる。</p> <p>② 肺の構造と機能（呼吸の機序とその調節系を含む）を説明できる。</p> <p><b>C-3-2)-(3) 循環器系と血液</b></p> <p>① 心・血管系、リンパ系の構造と機能を説明できる。</p> <p>② 血圧の調節機構を説明できる。</p> <p>③ 血液の成分と機能を説明できる。</p> <p>④ 造血器と造血機能を説明できる。</p> <p>⑤ 止血と血液凝固・線溶系を説明できる。</p> <p>⑥ 血液型（ABO式、Rh式）を説明できる。</p> <p><b>C-3-2)-(4) 免疫系</b></p> <p>① 免疫応答を説明できる。</p> <p>② 自然免疫と獲得免疫を説明できる。</p> <p>③ 液性免疫と細胞性免疫を説明できる。</p> <p><b>C-3-2)-(5) 体内・外の情報伝達と調節機構（神経系、感覚器系、内分泌系）</b></p> <p>① 脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。</p> <p>② 末梢神経系の機能的分類（体性神経と自律神経）を説明できる。</p> <p>③ 体性感覚（皮膚感覚と深部感覚）を説明できる。</p> <p>④ 視覚器、聴覚・平衡覚器、嗅覚器、味覚器の構造と機能を説明できる。</p> <p>⑤ 各内分泌系の構造と機能、調節機構を説明できる。</p> <p>⑥ 主なホルモンの特徴と生理作用を説明できる。</p> <p>⑦ ネガティブフィードバックを説明できる。</p> <p>⑧ ストレス反応について説明できる。</p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p> <p>6) 健康レベルを成長発達に応じて査定(Assessment)する能力</p>
<p><b>C-3-3) 生命誕生、成長・発達と加齢、ヒトの死</b></p> <p>ねらい： 妊娠から胎児の発育、生命誕生、人間の成長・発達の過程、加齢の影響、生物学的な死に関する基本的事項を学ぶ。</p> <p>学修目標：</p> <p><b>C-3-3)-(1) 妊娠・分娩・産褥</b></p> <p>① 受精から細胞分裂、器官形成の過程について説明できる。</p> <p>② 妊娠週数に応じた母体の心身の変化・特徴について説明できる。</p> <p>③ 妊娠週数に応じた胎児の成長・発達について説明できる。</p> <p>④ 胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生直後の変化を説明できる。</p> <p>⑤ 出産の機序について説明できる。</p> <p>⑥ 分娩経過に応じた母体の心身の変化・特徴について説明できる。</p> <p>⑦ 産褥期の母体の心身の変化・特徴について説明できる。</p> <p><b>C-3-3)-(2) 成長・加齢による変化</b></p> <p>① 新生児の身体・生理的特徴を説明できる。</p> <p>② 小児期における身体・生理的特徴、精神・運動・社会的発達を説明できる。</p> <p>③ 思春期・成人期における身体的・心理的・社会的変化を説明できる。</p> <p>④ 加齢（更年期を含む）に伴う身体的・心理的・社会的変化を説明できる。</p> <p><b>C-3-3)-(3) ヒトの死</b></p> <p>① 生物学的な死の概念と定義を説明できる。</p> <p>② 植物状態と脳死の違いを説明できる。</p> <p>③ ヒトにとっての死について説明できる。</p>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>10) 健康の保持増進と疾病を予防する能力</p> <p>13) 終末期にある人々を援助する能力</p>

<b>C-4 疾病と回復過程の理解</b>	III群 特定の健康課題に対応する実践能力
疾病の成り立ちを学び、対象理解を深めることにつなげる。また、回復を促す看護につなげるための根拠となる知識を学ぶ。	1 0) 健康の保持増進と疾病を予防する能力
<b>C-4-1) 病態の成り立ちと回復過程</b>	1 1) 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力
<b>ねらい：</b>	1 2) 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力
正常な状態から病態への移行と回復過程について学び、看護につなげる。	1 3) 終末期にある人々を援助する能力
<b>学修目標：</b>	
<b>C-4-1)-(1) 細胞障害・変性と細胞死</b>	
① 萎縮、変性、肥大、細胞死（ネクローシスとアポトーシス）を説明できる。	
② 細胞障害・変性と細胞死の病因を概説できる。	
③ 組織の形態的变化の特徴を説明できる。	
④ 細胞の寿命、DNA損傷・修復を説明できる。	
<b>C-4-1)-(2) 修復と再生</b>	
① 修復と再生を説明できる。	
② 創傷治癒の過程を説明できる。	
<b>C-4-2) 基本的な病因と病態</b>	
<b>ねらい：</b>	
対象理解に必要な病因と生体反応に関する基本事項を学び、看護につなげる。	
<b>学修目標：</b>	
<b>C-4-2)-(1) 遺伝的多様性と疾病</b>	
① ゲノムの多様性に基づく個体の多様性について概説できる。	
② 主な遺伝性疾患（単一遺伝子疾患、染色体異常、多因子疾患）を説明できる。	
<b>C-4-2)-(2) 栄養・代謝障害</b>	
① 糖代謝異常の病因・病態を説明できる。	
② タンパク質・アミノ酸代謝異常の病因・病態を説明できる。	
③ 脂質代謝異常の病因・病態を説明できる。	
④ 核酸・ヌクレオチド代謝異常の病因・病態を説明できる。	
⑤ 無機質代謝異常の病因・病態を説明できる。	
<b>C-4-2)-(3) 循環障害</b>	
① 血行障害（虚血、充血、うっ血、出血）の違いとそれぞれの病因・病態を説明できる。	
② 血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態を説明できる。	
<b>C-4-2)-(4) 炎症</b>	
① 炎症の種類、組織の形態学的変化と経時的変化（局所変化と全身的变化）を説明できる。	
② 感染症による炎症性変化を説明できる。	
<b>C-4-2)-(5) 腫瘍</b>	
① 腫瘍の病因を説明できる。	
② 良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。	
③ 腫瘍の種類、分化度、グレード、ステージを説明できる。	
④ 腫瘍の浸潤・転移について説明できる。	
<b>C-4-2)-(6) 感染</b>	
① 感染の成立と予防を説明できる。	
② ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫、プリオンを説明できる。	
③ 薬剤耐性（多剤耐性）を説明できる。	

<p><b>C-5 健康障害や治療に伴う人間の身体的・精神的反応の理解</b></p> <p>主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげる。</p>	
<p><b>C-5-1) 病（やまい）に対する人間の反応</b></p> <p>ねらい： 病（やまい）を患う人の身体的・精神的状態を全体的に理解し、看護につなげる。</p> <p>学修目標： ① 病に対する人間の身体的・精神的反応を全体的に理解できる。 ② 主要な症状（意識障害、けいれん、吐血・咯血、胸痛、乏尿・無尿・頻尿、疼痛（慢性的痛みを含む）等）と症状のマネジメントを理解できる。</p>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>1 0) 健康の保持増進と疾病を予防する能力</p> <p>1 1) 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力</p> <p>1 2) 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力</p> <p>1 3) 終末期にある人々を援助する能力</p>
<p><b>C-5-2) 疾病の診断に用いる検査と治療</b></p> <p>ねらい： 疾病の診断に用いる検査・治療に関する基本事項を学び、検査・治療を受ける人の看護につなげる。</p> <p>学修目標： ① 基本的な検体検査、生体機能検査、画像検査、内視鏡検査、心理・精神機能検査を説明できる。 ② 薬物治療を概説できる。 ③ 手術治療を概説できる。 ④ 放射線治療を概説できる。 ⑤ 食事療法を概説できる。 ⑥ リハビリテーションを概説できる。 ⑦ 輸血・輸液を概説できる。 ⑧ 人工臓器、透析、臓器移植・再生医療を概説できる。 ⑨ 精神療法を概説できる。 ⑩ 代替療法のエビデンスと位置付けを説明できる。</p>	
<p><b>C-5-3) 主な健康障害と人間の反応</b></p> <p>ねらい： 主要な健康障害に関する知識を学び、健康障害に対する人間の反応を理解し、観察、診療の補助、生活援助、患者・家族教育等、看護の重要な機能に結び付けられるようにする。後出のD看護実践の基本となる専門基礎知識に示すねらいを達成するために以下の学修目標を置く。</p> <p>学修目標：</p>	
<p><b>C-5-3)-(1) 循環器系の健康障害と人間の反応</b></p> <p>① 循環器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 心不全、虚血性心疾患、主な不整脈、主な弁膜症、心筋・心膜疾患、主な先天性心疾患、動脈疾患、静脈疾患、控脈症候群、血圧異常、ショック、チアノーゼ等</p>	
<p><b>C-5-3)-(2) 血液・造血器系の健康障害と人間の反応</b></p> <p>① 血液・造血器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 貧血、白血球減少症、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患等</p>	
<p><b>C-5-3)-(3) 呼吸器系の健康障害と人間の反応</b></p> <p>① 呼吸器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 咳嗽・喀痰、呼吸不全、呼吸器感染症、閉塞性・拘束性障害を来す肺疾患、肺循環障害、気胸、腫瘍等</p>	
<p><b>C-5-3)-(4) 消化器系の健康障害と人間の反応</b></p> <p>① 消化器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 主な口腔・咽頭の疾患、う蝕、歯周病、嚥下障害、嘔気・嘔吐、主な消化管疾患、腹痛・腹部膨満、イレウス、排便障害、下血・黄疽、主な肝臓・胆嚢・膵臓疾患、腹壁・腹膜・横隔膜の疾患、先天性消化器疾患等</p>	
<p><b>C-5-3)-(5) 内分泌・栄養・代謝系の健康障害と人間の反応</b></p> <p>① 内分泌・栄養・代謝系の健康障害と人間の反応について概説できる。 主な間脳・下垂体疾患、主な甲状腺疾患、主な副甲状腺（上皮小体）疾患、主な副腎皮質・髄質疾患、内分泌系の腫瘍、メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、痛風、ビタミン欠乏症等</p>	
<p><b>C-5-3)-(6) 水電解質・酸塩基平衡系の健康障害と人間の反応</b></p> <p>① 水電解質・酸塩基平衡系の健康障害と人間の反応について概説できる。 浮腫・脱水、電解質の異常、アシドーシス・アルカローシス等</p>	
<p><b>C-5-3)-(7) 泌尿器系、生殖器系の健康障害と人間の反応</b></p> <p>① 泌尿器系、生殖器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 主な上部尿路疾患、主な下部尿路疾患、主な排尿障害、女性生殖器の疾患、乳腺の疾患、男性生殖器の疾患、生殖機能障害、性感染症、性分化疾患等</p>	
<p><b>C-5-3)-(8) 免疫系、感染防御系の健康障害と人間の反応</b></p> <p>① 免疫系、感染防御系の健康障害と人間の反応について概説できる。 自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症、主なウイルス感染症、主な細菌感染症、主なマイコプラズマ、クラミジア、リケッチア感染症、主な真菌感染症、寄生虫症、医療関連感染、日和見感染、敗血症等</p>	
<p><b>C-5-3)-(9) 感覚器・神経・運動器系の健康障害と人間の反応</b></p> <p>① 感覚器・神経・運動器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 視覚障害、聴覚・平衡機能障害、嗅覚障害、味覚障害、皮膚障害、主な脳脊髄疾患、頭痛、運動の異常（麻痺・失調）、言語障害、認知症、主な末梢神経疾患、主な骨・関節・骨髄疾患等</p>	

<p><b>C-5-3)-(10) 精神・心身の健康障害と人間の反応</b></p> <p>① 精神・心身の健康障害と人間の反応について概説できる。</p> <p>統合失調症、気分（感情）障害、自律神経失調症、神経症性障害、ストレス関連障害、食行動・摂食障害、睡眠障害、小児・青年期の精神・心身の医学的疾患、成人・老年期の人格・行動障害、性同一性障害、産後うつ、様々な依存症等</p>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>1 0) 健康の保持増進と疾病を予防する能力</p> <p>1 1) 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力</p> <p>1 2) 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力</p> <p>1 3) 終末期にある人々を援助する能力</p>
<p><b>C-5-3)-(11) 小児特有の健康障害と人間の反応</b></p> <p>① 小児特有の健康障害と人間の反応について概説できる。</p> <p>発育不全、先天性疾患、脳性麻痺、発達障害、児童虐待等</p>	
<p><b>C-5-3)-(12) 物理・化学的因子による健康障害と人間の反応</b></p> <p>① 物理・化学的因子による健康障害と人間の反応について概説できる。</p> <p>食中毒、主な中毒、高温による障害、寒冷による障害、熱傷、外傷、褥瘡等</p>	
<p><b>C-5-4) 薬物や放射線による人間の反応</b></p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p> <p>9) 看護援助技術を適切に実施する能力</p>
<p><b>C-5-4)-(1) 薬物及び薬物投与による人間の反応</b></p>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>1 1) 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力</p> <p>IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力</p> <p>1 6) 安全なケア環境を提供する能力</p>
<p><b>ねらい：</b></p> <p>的確な薬物療法を行うために必要な基本的な考え方（薬理作用、有害事象、与薬時の注意事項）と看護援助を学ぶ。</p> <p><b>学習目標：</b></p> <p>① 薬物の作用点（受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター）を説明できる。</p> <p>② 薬理作用を規定する要因（用量と反応、親和性等）や薬物動態（吸収、分布、代謝、排せつ）を説明できる。</p> <p>③ 薬物の蓄積、耐性、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。</p> <p>④ 薬物相互作用とポリファーマシーについて概説できる。</p> <p>⑤ 薬物の投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻等）の違いによる特徴と看護援助を説明できる。</p> <p>⑥ 小児期、周産期、老年期、臓器障害、精神・心身の障害時における薬物投与の注意点と看護援助を説明できる。</p> <p>⑦ 主な治療薬（末梢神経系に作用する薬、中枢神経系に作用する薬、循環器系に作用する薬、血液に作用する薬、呼吸器系に作用する薬、消化器系に作用する薬、内分泌・代謝系に作用する薬、腎・泌尿系に作用する薬、感覚器系に作用する薬、生殖系系に作用する薬、免疫系に作用する薬、予防接種、抗感染症薬、消毒薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、抗腫瘍薬、分子標的薬、医療用麻薬、麻酔薬、主な和漢薬（漢方薬））の作用、機序、適応、有害事象及び看護援助を説明できる。</p> <p>⑧ 薬物の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。</p> <p>⑨ 薬物管理の基本的知識と注意事項を説明できる。</p> <p>⑩ 薬害について概説できる。</p> <p>⑪ 薬剤の職業性ばく露について説明できる。</p>	
<p><b>C-5-4)-(2) 放射線の医療利用による人間の反応</b></p>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>1 1) 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力</p>
<p><b>ねらい：</b></p> <p>放射線の医療利用（放射線診断、放射線治療、輸血用の血液に対する放射線照射等）、人間への放射線の作用と健康への影響・リスク、放射線利用の際の医療者の被ばく防護対策を学ぶ。</p> <p><b>学習目標：</b></p> <p>① 放射線診断、放射線治療の意義を説明できる。</p> <p>② 放射線の人体への作用機序を説明できる。</p> <p>③ 放射線の健康影響・リスクと被ばく線量との関係を説明できる。</p> <p>④ 放射線診断に伴う有害事象（造影剤の副作用等）を説明できる。</p> <p>⑤ 放射線診断に伴うリスクと看護について説明できる。</p> <p>⑥ 放射線治療に伴う有害事象（副作用）とその看護について説明できる。</p> <p>⑦ 医療者自身の被ばく防護対策を説明できる。</p> <p>⑧ 放射線被ばくに対する不安を理解し、関係職種とともに適切に対応できる。</p>	

<b>D 看護実践の基本となる専門基礎知識</b>	
看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。	
<b>D-1 看護過程展開の基本</b>	I 群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力
<b>D-1-1) 看護の基礎となる対人関係の形成</b>	3) 援助的関係を形成する能力
<b>ねらい：</b>	II 群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
看護の対象となる人との関係を形成する意義と方法を学ぶ。	5) 計画的に看護を実践する能力
<b>学修目標：</b>	
① 看護の目的意識をもって対象者に関心を寄せることができる。	
② 言語表現・非言語表現を用いた対象者との相互作用を通して関係を形成することができる。	
③ 対象者の様々な特性や多様性に応じた関係を形成することができる。	
<b>D-1-2) 多面的なアセスメントと対象者の経験や望み（意向）に沿ったニーズ把握</b>	II 群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
<b>ねらい：</b>	5) 計画的に看護を実践する能力
対象者の多様な情報（生活者としての側面、生物学的に共通する身体的・精神的な側面、環境との関係の側面、成長・発達の側面）を収集し、看護の視点から統合して対象者の経験や望み（意向）を共有しながらアセスメントする方法を学ぶ。	
<b>学修目標：</b>	
① 対象者の状況に応じて看護に必要な情報を収集できる。	
② 得られた情報を系統的・継続的に整理し、アセスメントできる。	
③ アセスメントに基づき対象者の全体像を描くことができる。	
④ 対象者（状況に応じて対象者と家族）の経験してきたことや望み（意向）を共有しニーズの把握につなげることができる。	
⑤ 全体像を描きながら対象者のニーズを見いだすとともに優先順位を決定できる。	
<b>D-1-3) 計画立案・実施</b>	I 群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力
<b>ねらい：</b>	2) 実施する看護について説明し同意を得る能力
アセスメントに基づく個性のある看護計画の立案と、計画に基づいた看護実践の方法を学ぶ。	II 群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
<b>学修目標：</b>	5) 計画的に看護を実践する能力
① 看護の視点から見いだされた対象者のニーズに対応する目標を示すことができる。	
② 目標を遂げるための要件を示し、看護計画を立案できる。	
③ 目標・要件に応じた評価日を設定して示すことができる。	
④ 基本的な看護技術を対象者のニーズに合わせて個別の看護実践に応用できる。	
⑤ 対象者がより良い方法を選択する過程を支えることができる。	
⑥ 対象者（状況に応じて対象者と家族）の経験や望み（意向）、強み（ストレングス）、ウェルネスを治療方法の選択や生活と関連付けて考えることができる。	
<b>D-1-4) 実施した看護の評価</b>	II 群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
<b>ねらい：</b>	5) 計画的に看護を実践する能力
看護過程全体を振り返ることによる、実施した看護の成果に対する評価を学ぶ。	
<b>学修目標：</b>	
① 実施した看護を評価する意義を理解できる。	
② 実施した看護を評価できる。	
③ 評価の基準に基づき、目標の達成状況を確実に評価できる。	
④ 評価に基づき、看護計画を修正できる。	
⑤ 実施した看護の振り返りを通して、自らの看護の特徴を理解し、学修課題の明確化と実践の修正ができる。	
<b>D-2 基本的な看護技術</b>	II 群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
<b>D-2-1) 看護技術の本質</b>	4) 根拠に基づいた看護を提供する能力
<b>ねらい：</b>	9) 看護援助技術を適切に実施する能力
看護技術は、看護の専門知識に基づいて、看護の対象となる人の安全・安楽・自立を目指した行為であることを学ぶ。	
<b>学修目標：</b>	
① 看護の行為としての看護技術の目的・特徴について説明できる。	
② 対象者の安全・安楽・自立を目指した行為であることを説明できる。	
③ 看護技術を評価する方法を説明できる。	
<b>D-2-2) 看護実践に共通する看護基本技術</b>	I 群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力
<b>ねらい：</b>	3) 援助的関係を形成する能力
看護実践に共通する基本的な技術を修得する。	II 群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
<b>学修目標：</b>	5) 計画的に看護を実践する能力
<b>D-2-2)-(1) 観察・アセスメント</b>	6) 健康レベルを成長発達に応じて査定(Assessment)する能力
① 看護の視点で対象者を観察することができる。	9) 看護援助技術を適切に実施する能力
② フィジカルアセスメントができる。	
③ 基本的な生活行動の観点から対象者をアセスメントできる。	
④ 収集した情報を統合して健康状態をアセスメントできる。	
⑤ 対象者を取り巻く社会環境をアセスメントできる。	
⑥ 生活者としての側面と生物学的に共通する身体的・精神的な側面の両側面を統合して人間を捉えることができる。	
⑦ 家族の機能の側面から家族をアセスメントできる。	
⑧ 精神機能のアセスメントができる。	

<b>D-2-2)-(2) 安全を守る看護技術</b> ① 安全な療養環境について説明できる。 ② 感染予防ができる。	II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 9) 看護援助技術を適切に実施する能力
<b>D-2-2)-(3) 安楽を図る看護技術</b> ① 基本体位を理解し、安楽を図ることができる。 ② 精神的安寧を保つ工夫ができる。 ③ リラクゼーション技術を修得する。	
<b>D-2-2)-(4) コミュニケーション技術</b> ① 看護におけるコミュニケーション技術を修得する。	I群 ヒューマンケアの基本的な実践能力 3) 援助的関係を形成する能力
<b>D-2-3) 日常生活の援助技術</b> <b>ねらい：</b> 安全で快適な療養生活を支援するための基本的な看護技術を学ぶ。 <b>学修目標：</b> ① 環境調整技術を修得する。 ② 食事援助技術を修得する。 ③ 排せつ援助技術を修得する。 ④ 活動・休息援助技術を修得する。 ⑤ 清潔・衣生活援助技術を修得する。 ⑥ 呼吸・循環を整える技術を修得する。	II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 9) 看護援助技術を適切に実施する能力
<b>D-2-4) 診断・治療に伴う援助技術</b> <b>ねらい：</b> 診断・治療の場面において、安全・安楽に受療できるための基本的な看護技術を学ぶ。 <b>学修目標：</b> ① 検査に伴う援助技術を修得する。 ② 創傷管理技術を修得する。 ③ 与薬の技術を修得する。 ④ 救命救急処置技術を修得する。 ⑤ 症状・生体危機管理技術を修得する。	II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 9) 看護援助技術を適切に実施する能力
<b>D-3 発達段階に特徴づけられる看護実践</b>	
<b>D-3-1) 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践</b> <b>ねらい：</b> リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、性と生殖の特徴を踏まえた健康を支えるための看護実践を学ぶ。特に、周産期にある人は、身体的・心理的・社会的変化や家族の変化への適応を求められる。これらの特性を踏まえて、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における対象者や家族に対する看護実践を学ぶ。 <b>学修目標：</b> ① 母性看護学の諸概念を理解できる。 ② 女性のライフサイクル各期の健康課題を理解し、看護を説明できる。 ③ 性の多様性を理解し、アセスメントできる。 ④ 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の身体的・心理的・社会的特性と生理的変化について理解し、アセスメントできる。 ⑤ 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者のヘルスプロモーションを理解し、看護を実践できる。 ⑥ 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常について、そのメカニズムと対象者に及ぼす影響を理解し、安全・安楽のための看護を説明できる。 ⑦ 人々のリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する社会問題を理解し、対象者の社会生活を支える看護を説明できる。 ⑧ 母子の健康生活について理解し、それを支える産後ケアや育児支援、母子保健のシステムについて説明できる。 ⑨ 周産期の家族が抱える親の愛着、絆の形成と役割発達等の発達課題と家族に及ぼす影響を理解し、家族の発達を支える看護を説明できる。 ⑩ 家族の特徴を踏まえ、新しく形成される家族を支えるための看護を理解し、多職種との連携・協働が理解できる。	III群 特定の健康課題に対応する実践能力 10) 健康の保持増進と疾病を予防する能力
<b>D-3-2) 小児期にある人々に対する看護実践</b> <b>ねらい：</b> 小児期は、新生児期から乳幼児期、学童・思春期、更に青年期に至るまでの目覚ましい成長・発達段階にある。家族との愛着形成を基盤に、自己概念の形成、セルフケア獲得、社会生活への適応等の発達を遂げることを理解し、子どもと家族の健康習慣の形成、健康状態に応じた養育や生活の調整、安全・安楽の保持等により、子どもが自分らしい生活を実現できるよう看護実践を学ぶ。 <b>学修目標：</b> ① 子どもの権利擁護の重要性を理解し、看護を実践できる。 ② 子どもの成長・発達に関してアセスメントできる。 ③ 成長・発達段階に適した看護実践の方法を見いだすとともに、セルフケア獲得等の成長・発達そのものを家族とともに支える看護を実践できる。 ④ 子どもの成長・発達と健康上の課題を統合するとともに、病院や家庭、学校等の場に応じた対象者のニーズを捉えて看護を説明できる。 ⑤ 病気が入院生活が子どもに及ぼす影響を理解し、苦痛の緩和、安全・安楽の保持を基本とする看護を説明できる。 ⑥ 子どもに特有な看護技術を理解し、対象者に適した方法で実践することについて説明できる。 ⑦ 様々な病期・症状・治療に応じた子ども（医療的ケア児を含む）の特徴を理解し、必要な看護を説明できる。 ⑧ 発達段階によって生じやすい小児期特有の健康問題の特徴と必要な看護について説明できる。 ⑨ 子どもの病気が入院生活が家族に及ぼす影響を理解し、病状や発達段階、家族の特性に応じて家族全体への看護を説明できる。 ⑩ 虐待等、特別な状況にある子どもや家族、社会の特徴を理解し、必要な看護を理解できる。 ⑪ 成人移行期における治療継続や自分らしい生活の実現のための看護を説明できる。	III群 特定の健康課題に対応する実践能力 10) 健康の保持増進と疾病を予防する能力

<p><b>D-3-3) 成人期にある人々に対する看護実践</b></p> <p><b>ねらい：</b> 成人期は、社会の一員として就労し、新たな家族や友人関係を育み、新たな役割や仕事を確立していく年代にある。身体的には、基礎代謝を含む身体の生理的状況が安定するとともに生殖機能が成熟する。また、仕事や家庭、及び地域での役割を通して、自らの特性や価値観を自覚していく。その一方で、加齢に伴う身体機能の低下を自覚し始める。このような発達課題を踏まえ、健康レベルに応じ、個々の人生設計に沿ったセルフケア、療養を支える看護実践を学ぶ。</p> <p><b>学修目標：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 成人期の身体的・心理的・社会的特徴について説明できる。</li> <li>② 成人期にある人の健康課題について、発達課題を踏まえ、身体的・心理的・社会的情報から、包括的にアセスメントできる。</li> <li>③ Adolescent and Young Adult (AYA)、トランジション等の健康課題について、小児期からの連続性と今後の人生・生活への影響を踏まえて包括的にアセスメントできる。</li> <li>④ 必要な療養やセルフケアについて、社会生活に求められる仕事と生活の観点から就労生活、家族生活との両立を支援する方法について理解できる。</li> </ol>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>1 0) 健康の保持増進と疾病を予防する能力</p>
<p><b>D-3-4) 老年期にある人々に対する看護実践</b></p> <p><b>ねらい：</b> 老年期は、これまで個々の人生を積み重ね、その人らしさがより際立つ年代にある。また、人生の最終段階を生きる年代にある。これまでに培ってきたその人らしさを尊重しつつ、身体的・心理的・社会的変化やスピリチュアリティ、発達課題を踏まえ、健康レベルに応じた看護実践を学ぶ。</p> <p><b>学修目標：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 高齢者特有の身体的・心理的・社会的変化、個々の生活過程、価値観、スピリチュアリティを踏まえた包括的視野で高齢者をアセスメントできる。</li> <li>② 高齢者の健康障害リスク（転倒、痛み、せん妄、認知機能の低下、うつ、低栄養、嚥下障害、褥瘡等）についてアセスメントし、予防する看護を説明できる。</li> <li>③ 高齢者及び家族のセルフケア能力をアセスメントし、その人らしさを生かし、持てる力を最大限に発揮できる支援方法を理解できる。</li> <li>④ 高齢者がその人らしく生きるため、多様な健康レベルに応じて多職種や関係機関との連携・協働について考察できる。</li> <li>⑤ 高齢者の個別性、価値観、家族、社会背景を踏まえた人生の最終段階における看護について考察できる。</li> <li>⑥ 認知症の高齢者の特性や看護について説明できる。</li> <li>⑦ 高齢者虐待の種類や特徴を理解し、看護職の役割を理解できる。</li> <li>⑧ 高齢者の尊厳と生活の質（Quality Of Life(QOL)）を支える看護について考察できる。</li> </ol>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>1 0) 健康の保持増進と疾病を予防する能力</p>
<p><b>D-4 健康の段階に応じた看護実践</b></p> <p><b>D-4-1) 予防が必要な人々に対する看護実践</b></p> <p><b>ねらい：</b> 予防が必要な対象者（個人・家族・集団等）について理解し、健康増進、自立の促進等を目指した看護実践を学ぶ。</p> <p><b>学修目標：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 対象者の強み（ストレンクス）を引き出し、健康増進、自立の促進等の看護を実践できる。</li> <li>② 対象者の行動変容に対する理解、関心や動機付けの状況についてアセスメントを行い、必要な看護を実践できる。</li> <li>③ フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念を説明でき、予防の看護を実践できる。</li> <li>④ 心身の健康障害の早期発見・早期診断・早期治療に必要な健診等のシステムとその活用について説明できる。</li> <li>⑤ 心身の健康障害に対する正しい理解への啓発活動について説明できる。</li> <li>⑥ 地域における心身の健康増進や障害者の生活を支えるシステムについて説明できる。</li> </ol>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>1 0) 健康の保持増進と疾病を予防する能力</p>
<p><b>D-4-2) 急性期にある人々に対する看護実践</b></p> <p><b>ねらい：</b> 小児、成人、老年といった各年代に応じた急性期や重症な状態、周術期にある人の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のための看護実践を学ぶ。</p> <p><b>学修目標：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 急性期や重症な状態にある人の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。</li> <li>② 急性期や重症な状態にある人をアセスメントできる。</li> <li>③ 急性期や重症な状態にある人に対する優先順位を踏まえた看護を説明できる。</li> <li>④ 主な検査・処置を受ける人の検査・処置に対する理解と意思決定を支える看護を実践できる（採血、心電図、エックス線、CT、MRI、エコー、内視鏡等）。</li> <li>⑤ 手術を受ける人をアセスメントできる。</li> <li>⑥ 手術を受ける人の手術療法への理解と意思決定を支える看護を実践できる。</li> <li>⑦ 疾患や治療（手術療法、薬物療法、化学療法、放射線療法等）に応じた観察項目を理解し、異常の早期発見と必要な看護を実践できる。</li> <li>⑧ 術後合併症を予防するための看護を説明できる。</li> <li>⑨ 認知機能の低下や精神疾患等の特徴を持つ人の急性期治療に対する反応を理解し、安全・安楽を守る看護を説明できる。</li> <li>⑩ 急性期や重症な状態にある人や家族の心理についてアセスメントし、不安の緩和を図ることができる。</li> <li>⑪ 回復過程及び退院を見通した看護を説明できる。</li> </ol>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>1 1) 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力</p>
<p><b>D-4-3) 回復期にある人々に対する看護実践</b></p> <p><b>ねらい：</b> 回復期にある人の心身の回復過程を理解し、個の特性に応じて生きることを支えQOLを高める看護実践を学ぶ。</p> <p><b>学修目標：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 心身の回復状況のアセスメントや回復状況に応じた看護を説明できる。</li> <li>② リハビリテーション、国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability and Health(ICF)）の概念を理解できる。</li> <li>③ 回復への動機付けや意欲についてアセスメントできる。</li> <li>④ 回復への意欲を支え、より主体的な回復過程を遂げるための看護を説明できる。</li> <li>⑤ 回復期にある人を支える家族の状況をアセスメントし、支援できる。</li> <li>⑥ 回復期にある人が個の特性に応じた生活を送るために、関係する職種や機関と必要な情報や目標を共有できる。</li> <li>⑦ 生活機能障害（身体、知的、高次機能、精神、発達）についてアセスメントでき、ノーマライゼーションの視点から必要な看護を説明できる。</li> <li>⑧ 回復期にある人が障害に応じた生活を送るために、活用できる社会資源と連携し、就労等の支援について説明できる。</li> </ol>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <p>1 2) 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力</p>

<p><b>D-4-4) 慢性期にある人々に対する看護実践</b></p> <p><b>ねらい：</b>          疾病を持ちながら生きる人やその家族の思いや生活、治療過程を理解し、セルフケアを伴う社会生活を支える看護実践を学ぶ。</p> <p><b>学修目標：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 慢性疾患の特徴と治療経過について理解できる。</li> <li>② 疾病認識と自己管理の状況、検査値等からセルフケアの現状と課題をアセスメントできる。</li> <li>③ 慢性疾患を抱える人への支援の基盤となる諸理論・概念について理解できる。</li> <li>④ 薬物療法等の治療の効果や副作用について判断できる。</li> <li>⑤ 急性増悪の誘因を理解し、予防的に対応できる。</li> <li>⑥ 慢性的な痛み等の症状を理解し、対象者の苦痛や不安に配慮できる。</li> <li>⑦ 対象者のセルフケアによる自分らしい生活の実現のために必要な社会資源を説明できる。</li> <li>⑧ 疾病が家族の生活や対象者との関係性にどのように影響するかを考えて支援できる。</li> <li>⑨ 様々な慢性疾患において必要とされる支援の特徴を理解し、病気に応じて適切な人・機関につなげることができる。</li> <li>⑩ 慢性期にある患者に対する全体的な視点からの緩和ケアについて説明できる。</li> </ol>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 0) 健康の保持増進と疾病を予防する能力</li> <li>1 2) 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力</li> </ol>
<p><b>D-4-5) 人生の最終段階にある人々に対する看護実践</b></p> <p><b>ねらい：</b>          人生の最終段階にある人が尊厳をもって個の特性に応じた人生を送ることができるための看護実践を学ぶ。また、人生の最終段階にある人の家族に対する看護実践を学ぶ。</p> <p><b>学修目標：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 人生の最終段階にある人の身体的変化について説明できる。</li> <li>② 人生の最終段階にある人の価値観や人生観、死生観を引き出し、終末期の過ごし方を考える援助関係の築き方について説明できる。</li> <li>③ 人生の最終段階にある人が自分らしい人生を送ることができるために関係機関・職種と連携する重要性を理解できる。</li> <li>④ 人生の最終段階にある人の疼痛のアセスメント及びコントロールの方法について理解し、苦痛緩和のためのトータルケアを説明できる。</li> <li>⑤ 死の受容プロセスと看護の対象となる人や家族の精神的ケアについて説明できる。</li> <li>⑥ 人生の最終段階にある人の意思決定プロセスの特徴と支援する方法を説明できる。</li> <li>⑦ 死後の家族ケア（悲嘆のケア（グリーフケア））について説明できる。</li> <li>⑧ 尊厳ある死後のケアの意義について説明できる。</li> </ol>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 3) 終末期にある人々を援助する能力</li> </ol>
<p><b>D-5 心のケアが必要な人々への看護実践</b></p> <p><b>ねらい：</b>          メンタルヘルスの概念は健康な状態から疾患・障害を抱えた状態の連続線上にある。心の健康をより良く保つためには、ライフサイクルを通じて多様な心のケアが必要とされる。メンタルヘルス上の問題の予防、早期発見、治療、リカバリー（回復）を当事者の強み（ストレングス）を生かしながら支援するために必要な看護実践を学ぶ。</p> <p><b>学修目標：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 心の健康の概念について説明できる。</li> <li>② ライフサイクル各期における発達課題と心の危機的状況について説明できる。</li> <li>③ 家庭・学校・職場等におけるメンタルヘルス向上のための支援について説明できる。</li> <li>④ 周産期の母親と家族のメンタルヘルスを保ち、子どもの健康な心の発達を促す支援について説明できる。</li> <li>⑤ 発達障害を早期にアセスメントし、適切な環境を提供する支援について説明できる。</li> <li>⑥ 自殺予防のための本人及び関係者への支援について説明できる。</li> <li>⑦ 依存症を持つ人とその家族への支援について説明できる。</li> <li>⑧ 精神疾患のリスクを早期にアセスメントし、早期から適切な治療を受けるための支援体制について説明できる。</li> <li>⑨ 精神疾患を持つ人の入院中から退院支援までの回復の段階に応じた看護を理解し、指導の下に実践できる。</li> <li>⑩ 精神疾患を持つ人の地域生活支援について、関係者と協働する必要性と方法を説明できる。</li> </ol>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 0) 健康の保持増進と疾病を予防する能力</li> <li>1 1) 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力</li> <li>1 2) 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力</li> <li>1 3) 終末期にある人々を援助する能力</li> </ol>
<p><b>D-6 組織における看護の役割</b></p> <p><b>D-6-1) 組織における看護活動とケアの質改善</b></p> <p><b>ねらい：</b>          組織における看護の機能と看護活動の在り方、看護の質の管理及び改善への取組を学ぶ。</p> <p><b>学修目標：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 組織における看護の役割について説明できる。</li> <li>② 医療機関における看護の組織、看護体制、看護の機能について説明できる。</li> <li>③ 組織の中での役割分担の在り方について理解できる。</li> <li>④ 組織の中での情報管理システムについて理解できる。</li> <li>⑤ 看護の質を評価する必要性とその方法について理解できる。</li> <li>⑥ 看護管理における費用対効果の重要性について理解できる。</li> <li>⑦ 看護活動をPDCAサイクル（plan-do-check-act cycle）を用いて改善する意義と方法について理解できる。</li> <li>⑧ 看護活動におけるリーダーシップ、メンバーシップの重要性を説明できる。</li> </ol>	<p>IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 4) 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力</li> <li>1 7) 保健医療福祉における協働と連携をする能力</li> </ol>

<b>D-6-2) リスクマネジメント</b>	IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力
<b>ねらい：</b>	1 6) 安全なケア環境を提供する能力
医療や看護におけるリスクマネジメントについて理解し、そのために必要な行動を身に付ける。	
<b>学習目標</b>	
① 医療におけるリスクについて説明できる。	
② リスクマネジメント、有害事象（転倒・転落等の事故、褥瘡、与薬エラー等）の予防方法について説明できる。	
③ 医療の中で安全文化の形成に向けて、チームとして取り組むことの意義について説明できる。	
④ 組織における医療安全対策等、医療機関の取組と看護の活動・役割について説明できる。	
⑤ 医薬品・医療機器の安全管理体制や安全な医療環境を形成する意義について説明できる。	
⑥ 組織における感染防止対策について理解し、実施できる。	
⑦ 医療事故の予防と発生時対応、発生後の分析と評価について説明できる。	
⑧ インシデント（ヒヤリ・ハット）レポートの目的を理解し、必要性について説明できる。	
<b>D-6-3) 保健・医療・福祉チームにおける連携と協働</b>	IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力
<b>ねらい：</b>	1 4) 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力
保健・医療・福祉チームにおける連携と協働を学ぶ。	1 7) 保健医療福祉における協働と連携をする能力
<b>学習目標：</b>	
① 保健・医療・福祉チーム員の機能と専門性、チーム医療の中での看護の役割について説明できる。	
② 対象者を中心とするチームの構築方法について説明できる。	
③ チーム医療の中での、相互の尊重・連携・協働について説明できる。	
④ チーム医療の中で効果的な話し合いをするための方法について説明できる。	
⑤ 在宅医療を推進するために、保健・医療・福祉機関の連携・協働を含めた看護の活動・役割について説明できる。	
⑥ 継続看護、退院支援・退院調整等、地域の関連機関と協働関係を形成する看護援助方法について説明できる。	
⑦ 他のチーム員と適切なコミュニケーションをとる必要性を理解し、指導の下で実践できる。	
⑧ チームの一員として、報告・連絡・相談の必要性を理解し、指導の下で実践できる。	

<p><b>E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識</b></p> <p>看護を提供する場は医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校、研究機関等多様となっている。また、グローバル化により、在日外国人に対してや諸外国での保健・医療活動等、国境を超えた看護実践の機会も増えている。これら看護が求められる多様な場を理解するとともに、看護実践を行うために必要な専門知識を身に付け、対象者の特性を加味した上で場の複雑性を認識しながら、対象者のニーズに応えるための看護実践を理解する。</p>	
<p><b>E-1 多様な場の特性に応じた看護</b></p>	
<p><b>E-1-1) 多様な場の特性</b></p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p>
<p><b>ねらい：</b></p>	<p>8) 地域の特性と健康課題を査定(Assessment)する能力</p>
<p>看護が提供される多様な場と生活の場の特性を学ぶ。</p>	<p>IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力</p>
<p><b>学修目標：</b></p>	<p>1 4) 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力</p>
<p>① 医療機関の種類とその特性について説明できる。</p> <p>② 訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護、地域包括支援センター、子育て世代地域包括支援センター等の在宅ケア機関とその特性について説明できる。</p> <p>③ 介護保険に関連する施設サービス、在宅サービス、地域密着型サービスの提供機関とその特性について説明できる。</p> <p>④ 母子、高齢者、心身・精神障害児・者等を対象とした福祉施設（入所・通所）とその特性について説明できる。</p> <p>⑤ 人々が働く産業の場の特性について説明できる。</p> <p>⑥ 児童・生徒が学ぶ学校の場の特性について説明できる。</p> <p>⑦ 国や地方自治体等、行政機関の特徴について説明できる。</p> <p>⑧ 暮らしの場（自宅、施設等）や地域の特性について説明できる。</p> <p>⑨ 国際保健・医療協力（国際連合（United Nations&lt;UN&gt;）、世界保健機関（World Health Organization&lt;WHO&gt;）、国際協力機構（Japan International Cooperation Agency&lt;JICA&gt;）、政府開発援助（Official Development Assistance&lt;ODA&gt;）、非政府組織（Non-Governmental Organization&lt;NGO&gt;））について概説できる。</p>	
<p><b>E-1-2) 多様な場に応じた看護実践</b></p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p>
<p><b>ねらい：</b></p>	<p>8) 地域の特性と健康課題を査定(Assessment)する能力</p>
<p>多様な場に応じた看護実践について学ぶ。</p>	<p>IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力</p>
<p><b>学修目標：</b></p>	<p>1 4) 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力</p>
<p>① 医療計画における各機関の役割分担を踏まえた看護の在り方と方法について理解できる。</p> <p>② 自宅、医療機関、在宅ケア機関における看護の在り方と方法について理解できる。</p> <p>③ 介護保険に関連するサービス提供機関における看護の在り方と方法について理解できる。</p> <p>④ 母子、高齢者、心身・精神障害児・者を対象とした福祉施設（入所・通所）における看護の在り方と方法について理解できる。</p> <p>⑤ 産業保健における看護の在り方と方法について理解できる。</p> <p>⑥ 学校保健における看護の在り方と方法について理解できる。</p> <p>⑦ 行政機関における保健活動について理解できる。</p> <p>⑧ 暮らしの場（在宅、施設等）や地域特性の違いによる看護の在り方と方法について理解できる。</p> <p>⑨ 在日外国人の文化的背景を考慮した看護を理解できる。</p> <p>⑩ 諸外国の看護・保健ニーズについて理解し、諸外国における支援の在り方や国際協力について理解できる。</p>	
<p><b>E-2 地域包括ケアにおける看護実践</b></p>	
<p><b>E-2-1) 地域包括ケアと看護</b></p>	<p>II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</p>
<p><b>ねらい：</b></p>	<p>7) 個人と家族の生活を査定(Assessment)する能力</p>
<p>様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、住み慣れた地域で暮らしを続けることができるようになるための、医療・看護・介護・予防・住まい・生活・子育て支援のためのサービス提供機関について学ぶ。</p>	<p>III群 特定の健康課題に対応する実践能力</p>
<p><b>学修目標：</b></p>	<p>1 0) 健康の保持増進と疾病を予防する能力</p>
<p>① 地域包括ケアの概念について理解できる。</p> <p>② 地域包括ケアにおける自助・互助・共助・公助の必要性について理解できる。</p> <p>③ 様々なライフサイクル、健康レベルにある人々への住み慣れた地域での健康支援の必要性について説明できる。</p> <p>④ 地域包括ケアに関連するケアサービス提供機関を列挙し、説明できる。</p> <p>⑤ 地域包括ケアにおける多機関・多職種連携・協働について理解できる。</p> <p>⑥ 地域の様々な社会資源を列挙し、どのような利用者に活用できるかを理解できる。</p> <p>⑦ セルフケア支援について理解できる。</p> <p>⑧ ノーマライゼーションの支援について理解できる。</p> <p>⑨ 複数の対象者のニーズと、その地域のニーズを理解できる。</p>	
<p><b>E-2-2) 地域包括ケアにおける看護の役割</b></p>	<p>IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力</p>
<p><b>ねらい：</b></p>	<p>1 5) 地域ケアの構築と看護機能の充実に関する能力</p>
<p>保健・医療・福祉のケアニーズをもつ人々が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるようになるために、地域包括ケアにおいて多様な専門職及び地域の人々と連携・協働し、看護の役割を發揮する能力を身に付ける。</p>	
<p><b>学修目標：</b></p>	
<p>① 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族の健康状態や特性、ケアニーズについて、人々の価値観、地域の特徴、文化を踏まえ、アセスメントできる。</p>	
<p>② 地域に暮らす人や、在宅療養者の自己決定（意思決定）への支援について説明できる。</p>	
<p>③ 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族の強みや主体性を引き出し、セルフケア力の發揮を促す支援について説明できる。</p>	
<p>④ 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族に必要な社会資源を理解できる。</p>	
<p>⑤ 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族への支援計画案における看護の役割を説明できる。</p>	
<p>⑥ 地域における多職種会議の方法を理解できる。</p>	
<p>⑦ 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族のニーズに対応するために、必要な新たなケアを創造する必要性が理解できる。</p>	

<b>E-3 災害時の看護実践</b>	
<b>E-3-1) 自然災害、人為的災害（放射線災害を含む）等、災害時の健康危機に備えた看護の理解</b>	IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力
ねらい：	1 5) 地域ケアの構築と看護機能の充実に図る能力
災害発生に備えた心構えと看護の方法を学び、平常時から地域全体で備えるとともに、被災時に被災地域や被災者に必要な看護に必要な知識を学ぶ。	
<b>学修目標：</b>	
① 災害の種類や災害サイクル、地域防災計画、支援体制について理解できる。	
② 災害時の医療救護活動のフェーズ（超急性期、急性期、亜急性期、慢性期、静穏期）と各期の看護について理解できる。	
③ 被災状況や放射線災害が及ぼす健康影響について把握する方法を理解できる。	
④ 災害時の医療救護活動の基本であるCSCATTT（Command and Control, Safety, Communication, Assessment, Triage, Treatment, Transport）について理解できる。	
⑤ 災害時の医療と看護（災害拠点病院、災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team<DMAT>）、災害派遣精神医療チーム（Disaster Psychiatric Assistance Team<DPAT>）、日本医師会災害医療チーム（Japan Medical Assistance Team<JMAT>）、災害時健康危機管理支援チーム（Disaster Health Emergency Assistance Team<DHEAT>）、災害援助対応チーム（Disaster Acute Rehabilitation Team<DART>）、日本栄養士会災害支援チーム（The Japan Dietetic Association-Disaster Assistance Team<JDA-DAT>）と看護の役割を理解する。	
<b>E-3-2) 災害時の安全なケア環境の提供の理解</b>	IV群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力
ねらい：	1 5) 地域ケアの構築と看護機能の充実に図る能力
災害時の安全なケア環境の提供について理解する。	
<b>学修目標：</b>	
① 災害看護活動の場（救護所、避難所、福祉避難所、仮設住宅、被災した医療施設等）における食事、排せつ、睡眠、清潔、環境といった生活への援助、身体的・精神的健康管理について理解できる。	
② 要配慮者、避難行動要支援者への看護について理解できる。	
③ 被災地域の人々、多職種との連携・協働による看護の必要性や方法を理解できる。	
④ 災害周期の変化に対応しながら多職種、地域の人々との連携・協働の上、安全なケア環境提供を継続する必要性を理解できる。	
⑤ 二次災害の発生と危険について理解できる。	
⑥ 被災者、救護者のストレスと心のケアについて理解できる。	

<b>F 臨地実習</b>	
臨地実習は看護の知識・技術を統合し、実践へ適用する能力を育成する教育方法の一つである。看護系人材として求められる基本的な資質と能力を常に意識しながら多様な場、多様な人が対象となる実習に臨む。その中で知識・技術の統合を図り、看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うとともに、看護専門職としての自己の在り方を省察する能力を身に付ける。	
<b>F-1 臨地実習における学修</b>	臨地実習では、Ⅰ～Ⅴ群のすべての能力の定着を図る
<b>F-1-1) 臨地実習における学修</b>	
<b>ねらい：</b>	
「A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力」（以下、再掲）を常に意識しながら、臨地実習を行う。	
① プロフェッショナリズム	
② 看護学の知識と看護実践	
③ 根拠に基づいた課題対応能力	
④ コミュニケーション能力	
⑤ 保健・医療・福祉における協働	
⑥ ケアの質と安全管理	
⑦ 社会から求められる看護の役割の拡大	
⑧ 科学的探究	
⑨ 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢	
<b>F-1-2) 臨地実習における学修の在り方（特徴）</b>	
<b>ねらい：</b>	
人々の治療や生活の場とそれらを支える社会資源の実際を知り、人々と関係性を築きながら、看護学の知識・技術・態度を統合し、実践へ適用する能力を身に付ける。	
<b>学修目標：</b>	
① 学修した看護学の知識・技術・態度を統合し、根拠に基づき個別性のある看護を実践できる。	
② 多様な場で展開される、人々の多様な生活（B・D・E参照）の実際を理解できる。	
③ 多様な社会資源、サービス、制度（B・E参照）の実際を見ることで看護の受け手の生活に関わる社会資源の意義を説明できる。	
④ 実習の積み重ねを通して、必要とされる看護が場や看護の受け手により異なることを理解し、看護者の役割を創造的に考察できる。	
⑤ 実施した看護の意味や課題を、看護の受け手を中心とする視点や倫理的観点で振り返ることができる。	
⑥ 実践の振り返りを通して、看護専門職としての自己の在り方を省察し、看護の質の向上に向けた自己研鑽ができる。	
<b>F-2 ケアへの参画</b>	
チームの一員としてケアに参画することを通じて、多様な場で多様なニーズを持つケアの受け手に対応するための基礎的能力を育成するとともに、チームの一員として活動できる態度を養う。	
<b>F-2-1) 看護過程に基づくケアの実践</b>	
<b>ねらい：</b>	
多様な場で多様なニーズを持つケアの受け手に対して適切なケアを提供するための基礎的能力を身に付ける。また、看護過程におけるアセスメントの重要性と看護過程が循環する一連のプロセスであることを学ぶ。	
<b>学修目標：</b>	
① ケアの受け手のニーズをアセスメントできる。	
② 必要な看護を、科学的根拠に基づき計画できる。	
③ 立案した計画の中で学生が行える看護を明確にできる。	
④ B～Eまでの知識・技術を用いてケアに参画し、必要な支援を得ながら看護を実施できる。	
⑤ 学生自身が観察・実施した看護の結果を、適切な相手に報告・連絡・相談できる。	
⑥ 学生自身が観察・実施した看護を的確に記録できる。	
⑦ ケアの受け手に提供された看護を評価できる。	
⑧ 看護過程の全ての段階において、主体であるケアの受け手の意思を尊重できる。	
<b>F-2-2) 安全なケア環境の整備</b>	
<b>ねらい：</b>	
多様なケアの現場で安全なケア環境を整備することの重要性を認識し、予防行動を遂行できる。また、インシデント（ヒヤリ・ハット）を起した場合は、報告の必要性と重要性を理解し、適切に報告できる。	
<b>学修目標：</b>	
① 転倒・転落、褥瘡等の有害事象の予防策を計画し、実施できる。	
② 感染防止対策を適切に実施できる。	
③ 実習におけるインシデント（ヒヤリ・ハット）報告の仕組みを説明できる。	
④ インシデント（ヒヤリ・ハット）事象に遭遇した場合は、迅速に報告・連絡・相談ができる。	
⑤ インシデント（ヒヤリ・ハット）事象に遭遇した場合は、その原因と再発防止策を説明できる。	
<b>F-2-3) チームの一員としてのケア参画</b>	
<b>ねらい：</b>	
チームの一員として、チームメンバーの指導を受けながらケアに参画すること、また実習グループメンバーによる協働学修を通じて、多様な場で多様なニーズを持つ人々に対応するための基礎的能力を育成する。また、チームの一員として活動できる態度を養う。	
<b>学修目標：</b>	
① ケアを提供するチームの目標及びメンバー各々の役割を説明できる。	
② チームにおける自身の役割を説明できる。	
③ チームメンバー（指導者等）の指導の下、看護の実施及び報告・連絡・相談ができる。	
④ カンファレンスにおいて自身の意見を表明し、メンバーの意見を聴くことができる。	
⑤ ケアの受け手の権利擁護に関する問題提起や相談ができる。	
⑥ チームを作るための基本的姿勢や方法を説明できる。	

<b>G 看護学研究</b> 看護学研究成果は、看護実践の根拠として看護の対象である人々への支援に還元される。また、社会における看護の必要性を示すとともに看護を説明することを可能にする。そのため、看護学の体系を構築する基盤となり、看護学の専門性の発展に貢献する。また、看護学実践を通して、より良い看護を探究する課題解決の能力を向上させる。学士課程においては、将来的な種々の研究活動の基盤を作ることに焦点がある。	
<b>G-1 看護研究における倫理</b> <b>ねらい：</b> 将来的な看護研究活動の基盤を作るため、看護研究における倫理の必要性と具体的な配慮の例を学ぶ。 <b>学修目標：</b> ① 看護研究における倫理の必要性について説明できる。 ② 看護研究における倫理的配慮の具体的な例とその理由が理解できる。 ③ 支援を受けながら、看護研究における倫理的配慮に関する計画を立案できる。 ④ 研究者倫理（対象者の人権擁護と研究不正の回避に必要な知識を含む。）を理解できる。	V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 1 9)生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力
<b>G-2 看護研究を通じた看護実践の探究</b> <b>G-2-1) 看護実践の探究</b> <b>ねらい：</b> 看護実践の探究とその方法としての研究の必要性を学ぶ。 <b>学修目標：</b> ① 看護実践の探究のために研究が必要であることを理解できる。 ② 看護実践の探究に向けて、看護現象について論理的・批判的に思考できる。	V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 2 0) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力
<b>G-2-2) 研究成果の活用方法</b> <b>ねらい：</b> 研究成果を解釈し、活用していく方法を学ぶ。 <b>学修目標：</b> ① 情報リテラシー、統計リテラシーを獲得できる。 ② 研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言等の文献の検索方法を理解し、実践できる。 ③ 基本的な研究方法の知識を持ち、文献・統計資料等を読み、支援を受けながら成果を解釈できる。 ④ 研究成果には適用可能範囲や限界があることを理解した上で、支援を受けながら、成果を理解できる。	II群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 4) 根拠に基づいた看護を提供する能力 V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 1 9)生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力
<b>G-2-3) 研究活動の実践</b> <b>ねらい：</b> 将来的な看護研究活動の基盤を作るため、看護研究の方法を学ぶ。 <b>学修目標：</b> ① 研究課題の抽出、研究計画の立案、実施の一連の過程を理解できる。 ② 文献研究、事例研究、実験・調査研究等の研究を、指導を受けながら、計画・実施できる。	V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力 1 9)生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 2 0) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力